

第1回飯田市社会福祉審議会児童福祉分科会（飯田市版子ども・子育て会議）

第1回飯田市次世代育成支援対策地域協議会 議事録

日時 令和2年7月16日（木）10:05～11:45

会場 飯田市地域交流センター3階会議室

出席者（委員）：原委員、森山委員、松村委員、村松委員、近藤（政）委員、宮澤委員、松本委員、小池委員、近藤（綾）委員、宮内委員、矢澤委員、小西委員、稲垣委員、土屋委員、菱田委員

（事務局）：清水健康福祉部長、高山子育て支援課長、小澤子育て支援課長補佐兼保育係長、蕨和子育て支援課長補佐兼こども家庭応援センター所長、関島子育て支援係長、福澤保育施設担当専門主査、片桐保健課保健指導係長、上沼学校教育課課長補佐兼学務係長

仲田学校教育課保健給食係長、

（司会）：小澤子育て支援課長補佐兼保育係長

## 1 開 会

## 2 任命書交付

各委員への任命書交付。任期は、本年4月1日から3年間、任期中に委員推薦の母体となる団体の役職等を退いた場合は、後任の任期は残任期間となる。

## 3 児童福祉分科会長

新型コロナウイルスのことで話題がいっぱいである。リーマンショックと比較されることが多いが、リーマンショックとコロナウイルスは次元が違うものだと考えている。リーマンショックは命の危機はないが、新型コロナウイルスは命の危機にさらされている。どういう方向性で進んでよいのかわからない現状である。今まで通りの生活に戻ることはないと考えている。これからのニューノーマル、新しい生活様式を作っていく状態である。そこで、子育て支援の分野ではどうしたらよいか、試行錯誤をしながらいい方向へ向かうことができるように意見を出していただき、検討していけたらと思う。

## 4 健康福祉部長あいさつ

今年の大雨、長雨、飯田市では人的被害が出てしまった。遠山地区では36災害の雨量を超えている。飯田地区ではまだ超えてはいないがコロナ禍での災害に改めて気をつけていただきたい。市では災害対策本部は立ち上げたままである。

新型コロナウイルスは、世界中の問題となっている。飯田市では第1弾から第3弾まで対策・支援策に取り組んでいる。国から地方創生臨時交付金の財源もあてているが、総額120億円である。1人10万円給付する特別定額給付金が約100億円。財源を活用し、子育てにおいても支援をしている状況である。支援が行き届かない部分については、今検討する中で8月4日に臨時議会を開催する。そこで第4弾を議会で審議していただき即決で議決し、第4弾を行っていききたい。自分にできる対策を最大限にさせていただきこの感染症にみんなで立ち向かっていきたい。

昨年、児童福祉分科会を6回行い、子育て応援プランを作成することができた。今年度はプランに基づき取組みが始まっている。今回の協議事項は元年度のプランの進捗状況を審議していただく。それぞれの立場から意見を出していただきたい。

5 飯田市社会福祉審議会・児童福祉分科会について

(1) 飯田市社会福祉審議会条例

(小澤子育て支援課長補佐兼保育係長より説明)

(2) 委員自己紹介

(3) 事務局自己紹介

6 報告事項

(1) 飯田市こども家庭応援センターの運営状況について

(菘和課長補佐兼こども家庭応援センター所長より資料 No. 1 の説明)

意見質問事項はなし

(2) 新型コロナウイルス感染症対応について

(小澤子育て支援課長補佐兼保育係長より資料 No. 3 の説明)

意見質問事項

A 委員

子育てに関する活動をする中で感じたことだが、コロナの影響により、病院での両親学級、乳幼児学級が中止、子どもの検診の数も減った中で、検診が受けられない、予防接種をどうしたらよいか母親が戸惑っていた。

出産をされる方については、面会、立ち合いができず、生んだ実感を味わえず、生んだ喜びを共感してくれる人がいない中で落ち込んでしまう人がいた。

初産の方は何を困っているかわからない。

中には母方の実家に里帰り出産ができず、両親の手助けを受けられない核家族の方もいた。

市民を守るため、やめることが多かった中で、どういう受け皿を作っていくかを考えていただけたらありがたかった。

事務局

健診等は状況により、種類、時間等対応を変更した。継続するものは継続し、一時期歯科検診など感染リスクの高いものは中止した。今は延期したものを徐々に再開している状況である。パパママ教室についても再開してきてはいる。中止したものはウェブサイトにて健診での情報、講座での情報を掲載している。

従来通りではない開催の仕方を工夫して、3密を避け、安全に配慮できる形を守りつつできることを行っていきたい。

A 委員

その情報を保護者に知ってもらえるのが大事だと思う。

事務局

現在、中止の場合はハガキでお知らせをし、変更するもの場合は市のサイト等でお知らせをしている。それを知らせることができる方法を検討したい。

## 7 協議事項

(1) 子育て応援プランの進捗状況について

(関島子育て支援係長より資料 No. 2 の説明)

意見質問事項

### A 委員

15 ページの基本目標 5 の中に、やさしいまちづくり推進事業がある。資料 2 では平成 30 年度にまでに全て終了したとあるが、今度の第二期応援プランの中には平成 31 年度に「中心市街地歩道等整備工事」の欄に 28 という数字がある。平成 30 年度に終わったのではなく、平成 31 年度までに目標を達成したという見方でよいか。

現在もベビーカーを押して歩くと歩道にあるグレーチングにベビーカーがはまってしまうことがよくある。土木課の方も実際に歩いてみたくれとありがたい。冬場に凍結防止のため公園の水栓を閉じてしまう。トイレが使えないため、子どもも保護者も困ってしまう。子育てにやさしいまちづくりであってほしいためトイレも使えるようになるといい。今後活かしてほしいと思う。

## 8 その他

## 9 次回開催予定

日時：令和 2 年 9 月をめどに開催予定 \*後日通知予定

内容 地域型保育事業、保育所型認定こども園について

子育て支援課長あいさつ

コロナのかじ取りが難しい。大雨もその都度の判断が難しい局面が多かった。現在も継続しているところである。社会基盤としては医療、保育、福祉、介護の分野では継続しなくてはならない。止めることができないが、一方でそこからクラスターを発生させてはならないので相当の神経を使って運営していただいている。この場を借りて関係者の皆様に感謝を申し上げたい。

閉じたくなる気持ちになる施設もあると思う。我々としては、医療や保育、福祉、介護は継続しつつ、感染予防にはできるだけ協力していただける方には協力していただき、蔓延防止の取り組みを図っていききたい。子育て支援、教育部分では休業することで拡大防止を図ってきた。虐待防止について社会が閉じていた状況の中で、子育てが社会から見えなくなることについて危機感を感じていた。主任児童委員の方にも協力いただいて各家庭の様子を確認をしてもらった。結果としてご意見の中にあつた乳幼児学級が中止、病院でも様々なものが中止になることもあつた。

里帰り、初産の方の心細さは計り知れない。現在は、先ほどの話の通り、病院・母子保健でも再開し今までの遅れを取り戻そうとしている。不安感を持っている方に対して救いの手を差し伸べることができるように、母子保健と子育て支援のタイアップによって、つどいの広場や子育てネットなど情報提供の場を使ってしっかりと情報発信をしていきたいと考えている。

新型コロナウイルスをみんなで乗り越えていけるように、民間の NPO 法人に運営委託をして

いるつどいの広場の活動の中で、SNS で子育て交流の場を作るなど、ネット上での子育て交流をアイデアとして発信・掲載してくれた。透明マスクの情報を発信してくれたのも民間の認定こども園であった。様々な寄附についても地元の方々がそれぞれ地元の保育園などに大量の消毒液等を購入してくれた。民間園同士が不足しているところを互いに物資を補うこともあり、乗り越えてきた。地域の様々な主体の皆様が知恵と力を出し合って地域子育て支援をしてくれた。この3か月を改めて振り返りながら、今後の新しい第二期子育て応援プランの地域子育て支援の展開の力にしていきたい。引き続きお世話になりますが、委員の皆様が多様な視点からご発言をいただいて第二期子育て応援プランが実のあるものになるよう進めていきたい。

## 10 閉会